文献センターが活動を再開します

― 活動計画と会員募集のお知らせ ―

1970年に設立の後、この10年余り活動を休止してきた富士宮の文献センターが活動を再開しました。10月以後、数次の準備会合を重ね、次のような活動計画をまとめました。ご支援・協力のほどお願いいたします。

【運　営】

① 運営および活動計画を立案し、センターの公開を図るとともに、支援・協力を要請する。

② センターの維持・運営は会員制とし、年間会費（１口）5,000円とする。

③ 会計は新会計年度としてスタートし、これまでの活動経過および報告は別途作成する。

④ センターは、会員に対して利用の便宜を図り、「通信」を発行して活動状況の報告・連絡・会員間のコミュニケーションを図る。

⑤ 管理・運営は、会員の合意のもとに、龍武一郎、奥沢邦成が責任を負うものとする。

⑥ センターの広範かつ長期的な活動のために相談役を踏襲し、活動全般に対して助言を受ける。
相談役は向井孝氏にお願いする。

活動を再開するにあたっての課題

1．書　庫　新　築
2．センターの運営基盤を固める
3．長期的な基本計画の作成

当面の計画

今できるところから、できる範囲で、できる人が手をつけていく――ことをモットーにして、とりあえず、第1次の3ヶ年計画をもって、センターの活動を再開する。

〔センターの活動・そのイメージ〕

・新築されたセンターの書庫で主要な文献が公開され、センターに行けば手にとって見られる。
・コピー機があって、必要なものは複写できる。
・文献データのデータベース化が開始され、パソコンで自由に検索ができる。
・活動の様子は「通信」によって連絡・紹介され、これらの諸活動は会員が中心となって行われる。

〈保管 ⇨ 公開 ⇨ 利用 ⇨ 情報化 ⇨ ネットワーク化〉

(1) 書庫建設

・書庫（8坪）を建築する（予算 250万円）。
・95年度中の完成を目指し、当面の資金は借入金によって賄う。

〔建築予定〕 95年3月下旬 ・建設開始〔ワークキャンプ〕
9月中～下旬 ・交流会〔ワークキャンプ〕

〔資金計画〕

・建設資金は会費を充当する。
95～96年は同資金カンパを含む会費2口（1万円）を呼びかける。
・建設資金（250 万円）は、一時借入れる。
・建設資金の返済は、 ◇～95年 100万円（5,000円×200口）
◇ 96年 100万円（5,000円×200口）
◇ 97年 50万円（5,000円×100口）

以後、100口（50万円）の会費の規模での運営を図る。

(2) 公開のための諸活動

① 主要な文献をできる範囲で公開する

・独自の分類により公開していく――日本図書分類にとらわれずに、項目別の分類を進める。つまり、内容に即して適宜、構成・再構成していく。

〔例〕・大杉栄（著作および関連書） ・スペイン革命 ・大逆事件 ・バクーニン……

② データベース化

(a) センター蔵書資料をパソコンデータでまとめる。

(b) 項目（テーマ、著者）別目録――センター内外を問わず、テーマ・著者・主題別に目録を作成する。

項目別にどのような資料があり、センターにあるもの、ないものはどこにあるか――といった情報についてデータ形式を決めて蓄積し、センターでパソコンによる検索ができるようにする。

③　研究活動

・前項(b)の項目別目録の作成――それぞれ関心のあるテーマについて、個人が目録を作成し、センターはその情報提供を受け、会員に公開する。

例えば、〈森野：プルードン、ゲゼル〉〈宮坂：ランダウマー、スティルナー、ドイツ革命〉〈小池：日本の文学運動におけるアナキズム、農青運動〉……といった具合。

・センターの研究テーマ――例えば“渡辺政太郎”。彼に関する資料収集を呼びかけ、交流を図り、資料を集める。

④　資料収集

・積極的に収集を進める

②項、③項によるデータ整理にもとづき、優先順位をつけつつ収集する。

〔購入予定の備品〕

・コピー　　・パソコン

(3)　長期的な基本計画の作成

・永続的なセンターの運営を図るために法人格の組織化を検討する。

・財団もしくは協同組合化といった方向が考えられる。

以上、センターの活動を実現するために、ご支援・協力をお願いします。

①　会　員　募　集　：　年会費　5,000 円 （書庫建設資金カンパを含め、95～96年度はできれば２口） ②　項目別目録作成への参加および情報提供　：　別紙「要項」を参照してください。

※センター通信として『リベーロ』が再刊されます

文献センターの活動再開に呼応して、休刊していた東京版『リベーロ』が再刊を準備しています。当面は「センター通信」として季刊ペースでの発行が考えられていますが、長期的には情報紙としての独自色を発揮していくことが期待されます。

1994年12月

龍　武一郎
奥沢　邦成
中久保邦夫
羽熊　直行